

～野菜類、花き類及びだいず ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生に注意～

ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの発生が増加しており、キャベツほ場では、多くの地点でハスモンヨトウの卵塊が確認されています。向こう1か月の気温は高く、発生に好適であるため、若齢幼虫の発生を確認したら直ちに防除を行いましょう。

1 発生概況について

- (1) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が、平年に比べて多く推移している地点があります（図1、2）。
- (2) 9月中旬のキャベツ巡回調査では、多くの地点でハスモンヨトウの卵塊が確認されています（発生地点率60% 過去10年間で2番目に多い）。また、シロイチモジヨトウの多発ほ場も確認されました。
- (3) 広島地方気象台の1か月予報（9月21日発表）では、向こう1か月の気温は高く、今後もハスモンヨトウ等の発生に好適な気候が続くと考えられます。

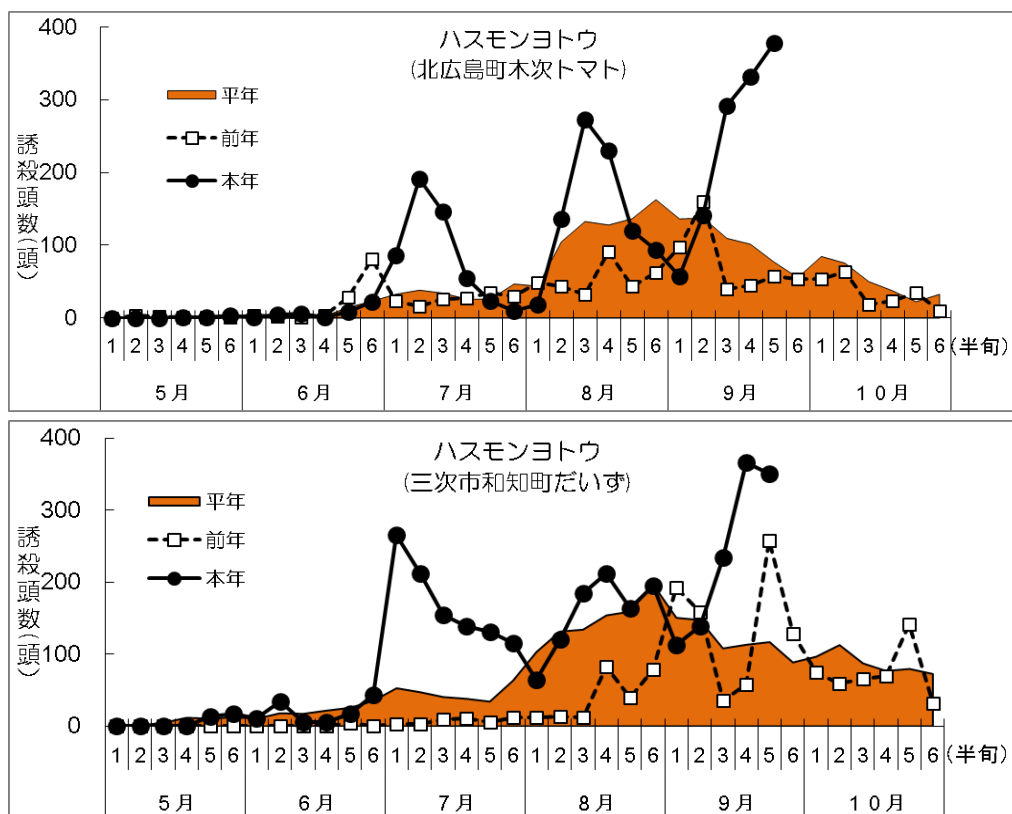


図1 フェロモントラップへのハスモンヨトウ雄成虫誘殺数の推移

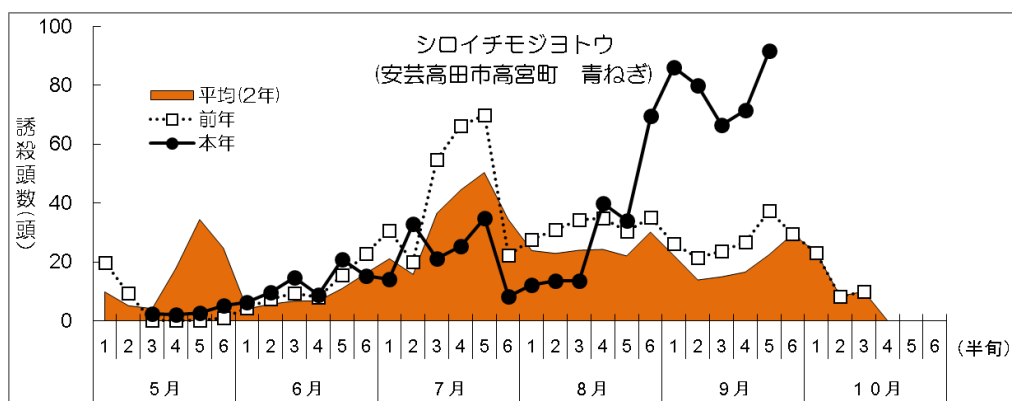


図2 フェロモントラップへのシロイチモジヨトウ雄成虫誘殺数の推移

2 防除対策について

- (1) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの幼虫は、広食性で多くの野菜類、花き類及びだいずを加害するため、注意が必要です。
- (2) 雌成虫は、ハスモンヨトウは黄白色、シロイチモジヨトウは灰白色の毛におおわれた卵塊を葉裏に産みつけます(図3)。ほ場を見回り、卵塊が多くみられる場合は、幼虫の発生に注意しましょう。
- (3) ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウの幼虫は老齢期になると薬剤が効きにくくなるため、若齢幼虫(図4)の発生を確認したら、直ちに防除してください。**若齢幼虫の発生時期(防除適期)は、フェロモントラップへの雄成虫誘殺ピークの7~10日後が目安です。**
- (4) 最新のフェロモントラップへの誘殺状況は、「ひろしま病害虫情報」ホームページでご確認ください。
- (5) 薬剤抵抗性回避のため、異なる作用機構の薬剤をローテーション散布しましょう。
- (6) 薬剤散布については、農薬使用基準を遵守しましょう。収穫前日数に注意し、周辺作物への飛散防止対策も行ってください。



図3 卵塊(左:ハスモンヨトウ、右:シロイチモジヨトウ)



図4 ハスモンヨトウ若齢幼虫



図5 ハスモンヨトウ中齢と老齢幼虫



図6 シロイチモジヨトウ老齢幼虫(左:緑色型 右:黒色型)

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151

東広島市八本松町原 6869

TEL: 082-420-9662 (直通)



ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

ひろしま病害虫情報

検索

